

今年の干支は牛さんです。牛の話をしてみましょう。

昭和三十年代まで京都市内にもたくさん牛がいました。

馬と共に、牛はトラクターのかわりをしていたからです。

たがやす時はすきをつけて、ならす時はまぐわをつけて、

お百姓さんといっしょに朝から日のくれ（夕方）までは

たらきました。お百姓さんは、夕ぐれになると、自分の牛

を近くの川に連れて行き、わらのブラシできれいに洗って

あげました。そして、家の玄関を一しょにくぐったのです。

たくさん牛をミルク用やお肉用にかっている牛かいさ

んは自分の家のほかに牛小屋をもっていますが、お百姓さ

んはふつう一頭の牛を大切にしていました。牛小屋より

も、目のいきとどく、母屋の入り口近くに、牛の部屋をも

うけて、一つ屋根の下で牛とくらしただのです。

牛のえさはあたりの草です。むかしはあちこちに牛のえ

さになる草がありました。冬用の干し草もかりとって屋根

うらやなやにためてありました。

牛のふんはすばらしい肥料になりました。牛小屋をそう

じする時に外に出して、また畑や田んぼに返します。

江戸時代は肉食は仏教の教えに反するということでお

こなわれませんでした。（ただ、薬食いと称して、こつそ

り肉食がおこなわれることもありましたが、彦根藩では近江

牛のみそづけを徳川の殿様にさしあげていたといいま

す。）

牛のほねをぐつぐつにてとった「にかわ」というものは

日本画の絵のぐを使うときや、なにかをくつつけるときや

丈夫にするときに使われました。

いろいろな面で日本人は牛のおかげをこうむってきた

わけです。音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（

② 牛は今の機械でいうと何の代わりをしていた
のですか？

（

③ たがやすときに牛につけるものは何ですか？

（

④ 夕方、お百姓さんは牛をどこに連れて行った
のですか？

（

⑤ ④はなんのためですか？

（

⑥ なぜ昔の農家は家の中で牛をかつていたの
ですか？

（

⑦ 牛のふんはなににつかわれましたか？

（

⑧ 江戸時代はなぜ焼肉屋さんになかったの
ですか？

（

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 江戸の将軍は肉食は一切しなかった。

（ ） 牛のほねも役に立った。

（ ） 牛は夕方になるとお百姓さんを川で洗った。

⑩ 上の文の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

